

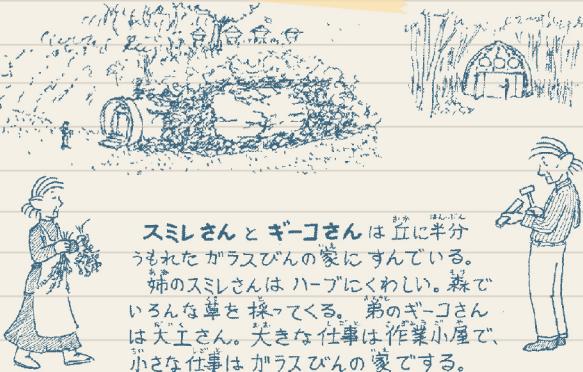
木の上の屋根裏部屋

トワイエさんは作家。木の上の屋根裏部屋に住んでいる。この家は嵐でどこからともてきた。

トワイエさんは物語のアイデアを思いついたら、わすれないように、その場でメモをする。



ガラスびんの家



スミレさんとギーコさんは丘に半分うもれたガラスびんの家に住んでいる。姉のスミレさんはハーブにくわしい。森でいろいろ草を採ってくる。弟のギーコさんは大工さん。大きな仕事は作業小屋で、小さな仕事はガラスびんの家です。

こそあどの森に すむひとたち

スキッパーは博物学者のバーバさんといっしょにくらしているが、バーバさんはショッチャウ旅に出かけるので、ほとんどひとりぐらし。家はウニをせた船のように見えるのでウニマルとよばれている。

スキッパーは本を読んだり、化石をながめたり、星を見たりするのがすき。



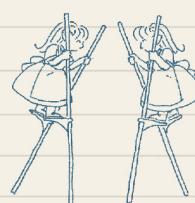
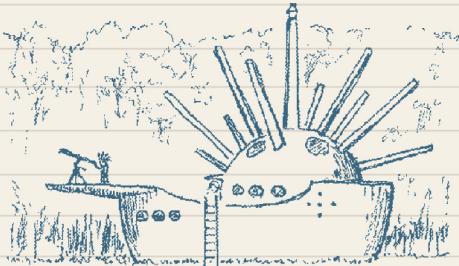
湯わかしの家

ポットさんとトマトさんは夫婦。ふたりは湯わかしの家に住んでいる。ポットさんは畑仕事がトマトさんは料理がすき。ふたりで森に木の便やきのこを探りにいく。どっさり採れたら、干して地下室にためておく。

湯わかしの家には大きなテーブルがあって、ふたりはもてなしすだから森のみんなは、この家によくあつまる。



ウニマル



巻き貝の家



ふたごは湖の島にある巻き貝の家に住んでいる。くらしのほとんどが遊び。食べるものもおかしのようないものはばかり。自分たちの名前さえ亮介だいでときどきかえてしまう。ヨットをあやつるのはとてもじょうず。

●どの巻から読んでも楽しめるこそあどの森の物語／全12巻 岡田淳 作・絵

